

2010年9月 定例議会 一般質問

□ 要旨

1. 安心安全なまちづくり ～ 業務継続計画 ～
2. 観光戦略 ～ 観光行政の成果と課題、今後の取り組み ～
3. 行財政改革 ～ 事務事業チェックシート、補助金チェックシート ～

1. 安心安全なまちづくり ～ 業務継続計画 ～

8月1日にWHOは新型インフルエンザ終息宣言を出した。昨年の6月定例会において新型インフルエンザに対する業務継続計画について一般質問で取り上げたところ、小田氏町は対応ガイドラインの策定と業務継続計画の調査研究を進めると答弁されている。終息宣言は出されたものの、今回の経験を次につなげるために現在の取り組みを問う。

- ① 新型インフルエンザに対するガイドラインの状況と終息宣言をうけての総括は？

<答弁>

この間、危機管理対応指針に基づき、対策本部を設置し、啓発及び蔓延予防に努めてきた。これまでの課題になった事例や今後の対策を明らかにするとともに、国や京都府の対策計画を基本とし新型インフルエンザ対策計画を早期に策定したい。現在は総括を進めているところであり、答弁するまでには至っていない。

- ② 業務継続計画についての調査研究状況は？

<答弁>

市行政が実施する業務の継続対策では、平常業務をいかに継続させるかという視点だけでなく、市民対応の非常時活動が中心になる。業務継続計画の策定に向けて研究を進めているが、現在のところ実情の情報収集程度にとどまっている。

2. 観光戦略 ～ 観光行政の成果と課題、今後の取り組み ～

平成17年に観光戦略プランが策定されてから5年が経過する。この間、観光振興の中核を担う観光戦略プラン推進本部会議は年3回程度の取り組み状況である。来年度は京都府で国民文化祭も予定されており、本市においてもイベントが実施される計画である。こうした機会を観光の需要に繋げていくことも重要であり、歳入の確保として全国で観光が注目される中、本市においてもより積極的に取り組む必要があると考える。

① 観光戦略プラン推進本部会議の状況について市長の見解は？

<答弁>

平成 21 年度は観光戦略プラン推進本部会議において、観光基礎調査の実施を踏まえたアンケート項目の検討、調査結果の分析を行った。同会議においては、シンクタンクの機能の発揮とテーマを絞った具体的取り組みの検討を期待している。

② 観光行政の成果と課題についてのご見解は？

<答弁>

観光戦略プランにおける行政の主な任務は観光基盤の整備である。ハード整備として、光明寺門前の観光道路整備や案内板の設置、歴史街道案内サインの改修等を実施。ソフト面として、乙訓・八幡歴史ウォークの開催、観光協会支援を行っている。これらの取り組みにより平成 20 年度、21 年度ともに入り込み客数 129 万 5000 人台を維持している。

課題は、事業実施主体の縦割り意識が強く単独で事業を行っているケースが多いことが挙げられ、今後の連携が必要と考えている。

③ 本市ホームページのトップページに観光協会のリンクを貼るなど観光情報が目に付くような取り組みの推進は？

<答弁>

本市のホームページのトップページに観光情報が掲載出来るよう調整中である。

3. 行財政改革 ～ 事務事業チェックシート、補助金チェックシート ～

本年度も事業仕分けが行われた。これまで、事業仕分けと共に、内部点検評価の事務事業チェックシート及び補助金チェックシートを市長は行財政改革の柱と繰り返し答弁されてきた。しかし、平成 21 年度補助金チェックシートを見ると、145 項目中の 115 項目が方向性として現状維持である。くわえて、事業仕分けの結果と内部点検評価の結果を比較すると、事業仕分けの結果の方が廃止などより厳しいものとなっている。このような現状は、内部点検評価が継続ありきに陥っているように感じる。より強力に行財政改革を進める必要があると考える。

① 平成 21 年度の事務事業チェックシート及び補助金チェックシートの活用をどう評価するのか？

<答弁>

平成 22 年度の予算編成における資料として活用した。そのなかでも、事業仕分け対象事業については、平成 22 年度予算で約 1,200 万円の縮減効果があった。平成 21 年度のチェックシートの活用については、事業仕分けの実施により、様式のみならず見直しの視点についても抜本的な改正を行うことができ、相当の効果が得られたと評価している。

- ② 平成 21 年度の補助金チェックシートにおいては 115 項目が現状維持としてあがっているが、見直しは進んでいるのか？

<答弁>

補助金チェックシート導入時の平成 16 年度においては、廃止や統合により 1 億 1,000 万円余りの縮減効果が得られた。近年は新規事業が、廃止や統合を上回る結果になり、効果額が次第に減少している。しかし、現状維持の項目の中にも見直しの時期の検討を明記したものがあり、一概に現状のまま機械的に継続ありきの視点に陥っているのではないと考える。

- ③ 事務事業チェックシート及び補助金チェックシートについて今後どのように活用するのか？

<答弁>

今年度初の試みとして事務事業チェックシート及び補助金チェックシートを活用した「集中心点検」を行った。来年度以降も発展させて行きたい。

- ④ 市長諸報告で取り上げられた見直し対象の 7 事業についての詳細は？

<答弁>

友好交流推進事業、長岡京ガラシャ祭実行委員会事業、環境 ISO14001 認証事業、老人園芸広場運営事業、まちづくり協議会支援事業、下水道使用量徴収事業、文化啓発事業の 7 つ。